2022 年度　学校自己点検・自己評価内容分析表

評価項目	学校自己評価内容	2022 平均点数	2021 平均点数	学校関係者評価委員による評価内容
Ⅰ教育理念・教育目的・教育目標	2022 年度から『新カリキュラム』を運営しているため、教育理念、目的、 教育目標にあたる期待する卒業生像（ディプロマポリシー）については、各教員間で方針が統一されている。そのため、今年度の自己評価は、1 つの項目以外、ほぼ全員が「当てはまる」の回答であった。［２　教育理念・教育目的は学生に周知され、学生の学修活動の指針となっている］については、前年度「当てはまらない」の回答が 2 名いた。今年度は「当てはまらない」の回答はなかったが、学生への周知や学修活動への指針という点でまだまだ不足しているという結果であると感じている。 本校の使命と本校が目指す看護師教育の実現を目指し、今後も教員間で話合いながらカリキュラムを運用していく予定である。	2.9	2.7	・今年度の自己評価、ほぼ全員が「当てはまる」の回答というのは素晴らしいこと。教育目標を共有され、教育にあたられていて嬉しく思う。 ・7 の「…ひとりの人間・学習者としての成長を促す側面から設定されている」項目はほぼ全員が当てはまるで感動を覚えた。ドリル的に学習していくだけでは成長しない職業である。未熟でも人の痛みがわかる人間に成長してほしい。 ・田植えの実習はとても良いと思った。食料がどのように成長していくかがわかる。食育のひとつにもなる。 ・この年齢になり、新聞をゆっくり読む時間ができ、新聞の情報はとても良いと感じている。若い人は新聞を読まないと思うが、社会情勢を知ることは大変重要なことであり、患者さんとの話題作りにもなると思う。そんな動機づけも必要。 ・HP をリニューアルされたことはとても良かったと思う。教育理念等をよくみることができ、虹を追うというフレーズも興味がわく。保護者も簡単に見れるし、学生も自分が写っている写真を確認する目的で HP を開いたとしても、学校の理念等を目にすることになる。それで、自然と頭に入ってくる。教職員も同じだ。それぞれの立場で HP をみるが、それぞれが相互的につながってくる効果もある。 ・年々評価の点数が伸びているのは教員の方々の工夫や努力によって目標達成に近づいているのだと思う。前年度同様 2 に対しては、やや半々の評価に分かれているのはどうしてかと思うと同時に、3 は当てはまるが 10 名となっており、少し矛盾を感じる。

Ⅱ 教 育 課 程 経 営	〈教育課程実践者の教育課程に対する理解〉、〈科目、単元構成〉、〈教育計画〉〈教育課程評価の体系〉に関しては、Ⅰで述べたように、新カリキュラムを運用する上で話し合いを重ねてきたため、教育理念から教育目的、それを受けて構成された科目・単元構成への理解度が高くなっている。 しかし、〈教員の教育・研究活動の充実〉、〈学生の看護実践体験の保障〉については、評価が低いままである。特に〈教員の教育・研究活動の充実〉の［２ 授業準備の時間をとれる体制］や［３・４自己研鑽のシステム・相互研鑽のシステム］についての評価はいつも低い。教育活動が多岐にわたるため個人の活動時間がなかなか取れない現状は変えられていない。また、コロナ禍において、研修会への出席ができない状況が続いたことも要因となっていると考える。教員の教育力を上げるよう環境を整えることが大切である。 〈学生の看護実践体験の保障〉では、［２ 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている］［３ 臨地実習施設は臨地実習指導における学生の学びを保障するために臨地実習指導者の役割を明確にしている］［４ 臨地実習における学生の学びを保障するために教員の役割を明確にしている］について評価が低い。臨地実習を円滑に行うため、病院との連携は密にしているが、コロナ禍で臨地実習指導者会議も全員が出席できない状況で、教員に連携をどのようにしているのが	2.7	2.6	・学生の看護実践体験の保障では、万難を排してできる限り実践を行うことが望ましいと思う。竹田綜合病院が近くにある強みを生かし、他ではできないような実践を強化することは最大のアピールになる。 ・〈教員の教育・研究活動の充実〉は、2019 年度から話題に上がっているが、何も工夫されていないということである。管理するものは、教員の教育活動、せめて講義前は集中させられるような体制をつくらないといけない。 ・コロナ禍で制限されていたことが少しずつ緩和されてきた。以前の日常を少しずつ取り戻せるような話し合いが必要になってくる。 ・〈教員の教育・研究活動の充実〉に関しては、時間を取るのが難しいのはわかるが、個人に委ねるのではなく、管理者が配慮するようにしなければならない。 ・コロナ禍での研修会は WEB 開催が多く、出席率が上がっている。勤務内で研修に参加することが難しいのであれば、そこは研修の時間としてとる。また、がんばったことを聴き、評価することも大切。 ・あくまで自己研鑽なので時間外で行うことは問題にしなくてもよい。ただ、研修内容を発表する機会があると、評価する機会もでき、本人も承認されている思いを持てると思う。 ・臨地実習に関しては、実習要項は渡されているが、忙しいと見ない場合が多い。要項はわかるが、少しオリジナリティーがあるものをつくるなど、伝える工夫も必要だと感じる。双方の理解を深めるコミュニケーションも大切である。 ・〈教員の教育・研究活動の充実〉、〈学生の看護実践体験の保障〉については、評価が低いのは活動の幅が制限されていた現状から仕方がないと思う。そんな中、演習の場に臨地実習指導者の方に参加して

2022 年度　学校自己点検・自己評価内容分析表

	伝わらない状況だったと思われる。臨床側も教育について知らないことが多いと感じ、今年度は学生の演習に模擬患者役として臨地実習指導者に参加してもらった。それにより、臨地実習指導者からは学校で行なっている教育の内容がわかり学生さんの考えていることが少しわかった、新人教育にも役立つ、等の意見をもらえた。また、教員も臨地と乖離している部分が見えて勉強になったとの意見があり、お互いの意識向上につながったと感じている。今後もお互いの教育観が向上できるような取り組みを実施していく必要がある。			もらったことで、双方の考えや思いが伝わってよかったですね。学校側と臨床側それぞれ「感染予防」を考えるが故に行違うこともあったと思う。これから、行動制限の緩和や「第 5 類」への引き下げ等で実習のカリキュラムや対応などが変わり大変だと思うが、学生たちが実習しやすい環境づくりに心がけてほしい。
Ⅲ 教 授 ・ 学 習 ・ 評 価 過 程	〈授業内容〉の［３　授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている］について評価が低い。これに関しては、カリキュラムの見直しを行う際に、授業内容を担当者がそれぞれ分担して作成した。領域の科目ごとに検討するべきところをできた科目から行っていたため、カリキュラム全体・領域や科目の繋がりを見直す期間がなく、現在に至っている。カリキュラムの変更から 1 年が経過し、科目間の繋がりや授業内容の重複などが明確化してきた。今年度はこの不足点について取り組む予定で進めている。	2.7	2.6	・授業内容の重複については、何度も同じ内容を教授しても良いと思う。人によって教授の仕方も違うであろう。また、重複の濃淡にもよるだろう。「私はこのように指導したよ、じゃあ、私はこう指導するか…」などの話し合いが必要だと思う。教員間のコミュニケーションも重要である。 ・教育内容が多岐にわたるため、重複しないようにする気持ちは理解できる。過去に感染についてはそれほど詳しくなくてもよいかと考え、教育内容を整理したことがあった。しかし、今はこのような感染症が起こる時代になっている。社会の状況に応じた教育内容を精選することも必要。また、教育内容の抜けがないようにすることも必要。そうすると重複もあっていい。重なり合う教育も大切である。 ・重複は問題ないと思う。何度も違う状況や学年で学ぶことで、重要性を理解したり、違う角度からの学びが得られたりすると思う。 ・今後の目標が明確化されてきたとのことで、今後の評価に期待したいと思う。

2022 年度　学校自己点検・自己評価内容分析表

Ⅳ 経 営 ・ 管 理 過 程	〈組織体制〉は、１・２・３の［意思決定システムが明確になっている］［意思決定システムは組織構成員の意思を反映できるように整えられている］［意思決定システムは決定事項が周知できるように整えられている］［教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある］の評価がそれぞれ低い。管理者が教職員一人ひとりとよく話し合い、考えや要望を確認し、それぞれの考えをより良い方法で実現できることを目指していく必要がある。 今年度は、経営方針、今後の事業計画なども教職員に示してきたつもりであるが、共に考えていく体制ではなかったと振り返る。財務基盤や将来構想などをオープンにし一人ひとりが経営戦略を考えられるような体制づくりをしていく必要がある。	2.8	2.3	・この項目で出ている数字は管理側への不満の現れである。受け止めなければならない。財政基盤は、希望しても購入してもらえない教材などがあると、実現されない不満が出る。ここは計画的に実現していくことが必要。 ・財政基盤については、必ずしもオープンにしなければならないわけではない。 ・財政については、思うようにいかないのは理解できる。 ・経営方針等を示していくのは良い。オープンにしていくことで思いが伝わっていく。ここは、よく評価してもよいのではないか。 ・前年度とほぼ同じ評価である。〈組織体制〉の 4 は「教育理念・教育目的達成との整合性」が評価が低いため少しでも改善できるようお願いしたい。
Ⅴ 入 学	入学については、2022 年度「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を作成した。これにより、本校ではどのような人材を求めているかを明確に示し、2023 年度の入学試験は、「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を軸に選考を実施した。今後も入学選抜試験の方法は検討が必要であるとは思っているが、まず、2023 年度の入学生を迎え、その成長を見ていく過程で評価ができると考えている。	2.8	2.4	・「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」について課題も挙がっているようだが、まだ 1 年目なので、その後の過程や結果が楽しみである。

2022 年度　学校自己点検・自己評価内容分析表

Ⅵ 卒 業 ・ 就 業 ・ 進 学	「期待する卒業生像」に関する評価は毎年調査している。現カリキュラムは 2023 年度の卒業生までとなる。現カリキュラムの評価は新カリキュラムへつながっていくため、継続していく。 　本校は竹田綜合病院へ 7～8 割の卒業生が就職している。前年度は新人研修の担当者と連携を取り、本校の卒後 1 年目の状況を確認してきた。今年度は、竹田綜合病院に勤務する人に所属長を通じてアンケート調査を実施した。また、新人担当のペアナースや所属長からの意見も調査した。これらの結果から学校に求められていることとして、卒業生からはより実践的な学習、所属長等からは、社会人基礎力・自ら学ぶ姿勢などであった。このことを参考にまずは、自分で考え行動していける力を育成してきた。今後も卒業後の評価は継続し、教育課程に反映できるようにしていきたい	2.5	2.5	・卒業生等にアンケートを実施しているのは素晴らしい取り組みである。このようにしている結果を在学生にも示せると良い。 ・卒業生が、就職してもっと技術を教えてほしかったと考えるのは当然だ。臨床の受ける側が求めている社会人基礎力もよくわかる。しかし、学校でこの両方を叶えるのはなかなか難しいとは感じた。 ・社会にでて、他人から指導されたり注意されたりして大人になっていくことは多い。昔は病棟で話を聴くボランティアなどがあった。アルバイトもいい経験になる。そのような経験からコミュニケーション力がアップしていくのではないか。課外での教育という点で長期休暇にアルバイトすることは学生にとって社会勉強になると思う。 ・アンケート調査の方法を変えてそれぞれが思う学校への要望が聞けたことは大きな収穫。これからも継続されるとのことで期待したい。
Ⅶ 地 域 社 会	地域社会との連携については、今年度からボランティア活動が授業単位になった。そのため学生は、地域でボランティアを探して活動してきた。積雪が多い時期には、地域包括支援センターから除雪ボランティアの依頼もいただけた。少しずつでも地域の方のお手伝いができ	2.5	2.4	・核家族が多く、以前、ある保護者から「うちの子は老人を怖いと思っている。どのように教育したらよいか？」と相談を受けたことがあり、大変ショックを受けた。自分は祖父母に育てられた経験があり、そのようなことを思う子がいる時代になったと感じ、教育が必要になったことを実感した。

2022 年度　学校自己点検・自己評価内容分析表

	るような活動を実現していきたいと考えている。 　また、今年度は老年看護学概論の講義に、地域で活動されている高齢者サークルの方々に参加いただき、元気な高齢者の姿をみせていただいた。学生はもちろん、参加いただいた方々も、「若い人と話ができて楽しかった」と皆さんが口をそろえて言って下さり、地域の方々との交流が図れてとても良い経験となった。			・田植えの実習は、地域の方との交流が目的とは聞いたが食育にもなる。食料自給率が低い日本である。日本の食料事情や食物の育て方などを学ぶことも大切だと考える。 ・ボランティアが授業になるのは悲しい気もするが、その経験から次に進めると良いと感じる。 ・コロナ禍でなかなか難しい目標だったと思う。良い経験になってよかった。竹田健康財団はいろいろな事業をされているので、病院等と連携を取り、許される範囲で地域の方々と接することができればよいと思う。
Ⅷ 研 究	研究活動は教育の発展のために必要な活動である。今年度は、研究担当者を 3 名決め、研究活動を実践した。来年度の「日本看護学校協議会学会」に演題を提出する予定である。 　今後も研究活動が継続していけるよう、教員それぞれが研究活動のできる環境を整えていく必要があると感じている。	2.2	1.5	・研究したい気持ちが表れている結果で、教員の皆さんの真面目さが伝わる。管理側はその気持ちを汲み取り環境を整えていくことが必要である。 ・指名されるとやらざるを得ない状況になる。しかし、これがきっかけになり、研究が続いていくことにもなる。 ・先生たちが研究活動など頑張っている姿は学生にとってロールモデルになると思う。学びは継続していく必要があることを学生に示すことにもなる。 ・前年度は体制づくり、今年度は実践でき、次の目標も挙がっており、教員の意欲も変わってきているかと思う。2.3 の評価が上がるといいですね。